

1 慰霊碑



※写真提供 青函連絡船殉職者遺族会

基本情報

所在：函館山登山道と下山道の交差点付近
 住所：北海道函館市函館山字水元谷1
 (函館市電 青柳町駅 徒歩10分)
 建立者：日本国有鉄道職員、有志
 建立年：昭和28年8月
 連絡先：青函連絡船殉職者遺族会 個人宅のため記載せず

碑文

【表】

(梵字：バク)

【表・下】

昭和二十年七月半頃なりしか青函連絡船への空爆相次ぐ今すなわちこれに殉ぜし僚友の御霊をなぐさむるため碑をたつといふ格調もとよりいふにたらざるも いささか感慨をのべて御霊にささげまつらんとす

潮さいに
 むせび千鳥の
 なく浦み

かなしかえらぬ
 君ししぬばえ

昭和二十八年八月
 日本国有鉄道総裁
 長崎惣之助

【左側面】

慰霊碑

【袖垣】

殉職者氏名

昭和二十年七月十四日
 空襲にて殉職

(故人名)

2 本別町戦没者・戦災死没者追悼式



※写真提供 本別町

開催概要（平成26年度）

歳事名：本別町戦没者・戦災死没者追悼式
 会場：本別町ふれあい交流館
 住所：北海道中川郡本別町向陽町23-1
 （JR帯広駅より 十勝バス「本別南1丁目」下車 徒歩8分）
 日時：平成26年7月15日（火） ※例年7月15日開催
 参加者数：48人
 連絡先：本別町 保健福祉課 社会福祉担当 0156-22-8520（直通）

式次第（平成26年度）

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 開会のことば | 5. 追悼のことば |
| 2. 追悼報告 | 6. 追悼電報奉呈 |
| 3. 黙祷 | 7. 献花 |
| 4. 式辞 | 8. お礼のことば |

式辞（平成26年度）

本日ここに 多数のご遺族 並びにご来賓の皆様のご参列を賜り 平成26年度本別町戦没者戦災死没者追悼式を執り行うにあたり 戦没者戦災死没者各位の御霊の前に 謹んで追悼の誠を捧げます

顧みれば 日清日露の戦役から太平洋戦争に至る累次の国難にあたり愛する祖国の平和と独立を完うする国家の要請に応じ 父母肉親の恩愛を断ち 故郷の山河を後にして極寒荒涼の北辺の地に 猛暑灼熱の孤島の前線に そして果てなく海原続く南海の洋上に ただひたすら国の将来と家族の行く末を案じながら 再び祖国の土を踏むことなく 尊い命を捧げられた方々を思うとき 真に痛恨の極みであります

そのけだかく美しい祖国愛のこころと熱しは 国民崇高的であり我が国平和の礎として燦然と光り輝き 末永く後世に伝えられるものと信ずるものであります

また終戦をわずか一ヶ月前にして あの凄まじい空爆の犠牲となられた尊霊には いかにか戦時のことはいえ悲痛の念が強く胸に迫るのを禁じ得ません

その悪夢のような大戦が終わりを告げてから 69年の長い歳月が流れ 改めて最愛の肉親を犠牲になされたご遺族皆様方におかれましては 戦後の厳しい荒れ果てた世相の中から今日までの長い間深い悲しみに耐えながら多くの困難を克服してこられましたことに心から敬意を表します

わが国は 尊霊の厚いご加護と ご遺族皆様をはじめ 国民のたゆまぬ努力によって こんにち世界においても類例のみない経済大国 平和で豊かな福祉国家として発展してまいりました

また 郷土本別にありまして ご遺族はじめ町民各位の日夜をわかつた努力によって 飛躍的な発展を続け 旧跡をとどめぬまでに変貌をとげ さらに尚一層の繁栄が期待されます

時の流れは ともすれば悲惨な戦争の記憶を風化させ 平和の尊ささえ忘れさせようとしています

しかし事情はいかにあれ 国際社会では現在もお武力による紛争が続いていることを考えますとき 今こそ真剣に恒久平和の実現に努めなければなりません

あの悲惨な歴史を二度と繰り返さないよう 町民と共に決意を新たにすることが 後に残り今に生きる者に課せられた責務であり 尊霊にお応えできる最上の勤めであると信ずるものであります

本日 私はこの式典に臨み 今日この平和で豊かな本別の礎として 戦没された方々の尊い犠牲があったことを 決して忘れることなく 今後とも先人が築き上げてきた郷土を守り育て 誰もが安心して生活できる 地域社会づくりの一層の推進を図り 夢と誇りをもてるまちづくりを 全力を注いでまいりますことを 固くお誓い申し上げます

結びに 戦没者 戦災死没者各位の御霊が とこしえに安らかならんことをお祈り申し上げますとともに ご遺族並びにご参列の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ 式辞といたします

平成26年7月15日
 本別町戦没者戦災死没者追悼式
 執行委員長 本別町長 高橋 正夫